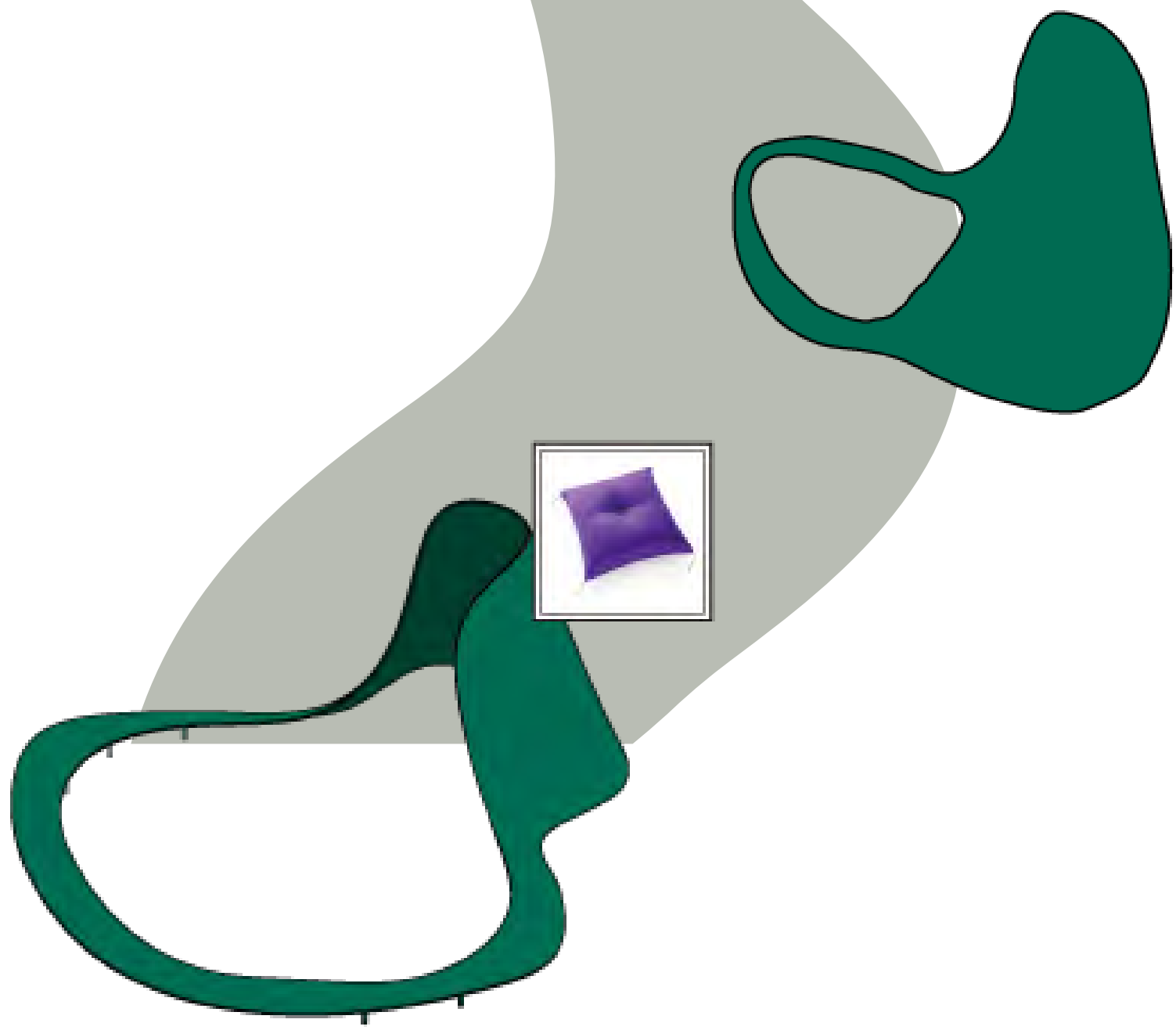
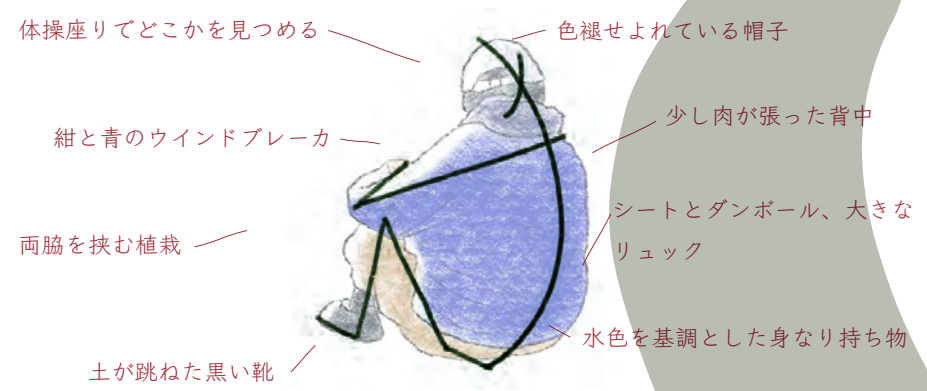
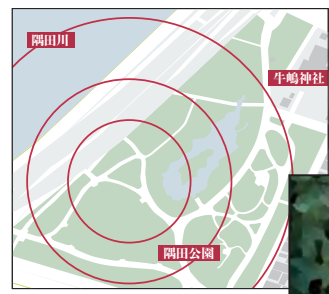


妄想隅田川

枕 隅田川、往く人の妄想は絶えずして――



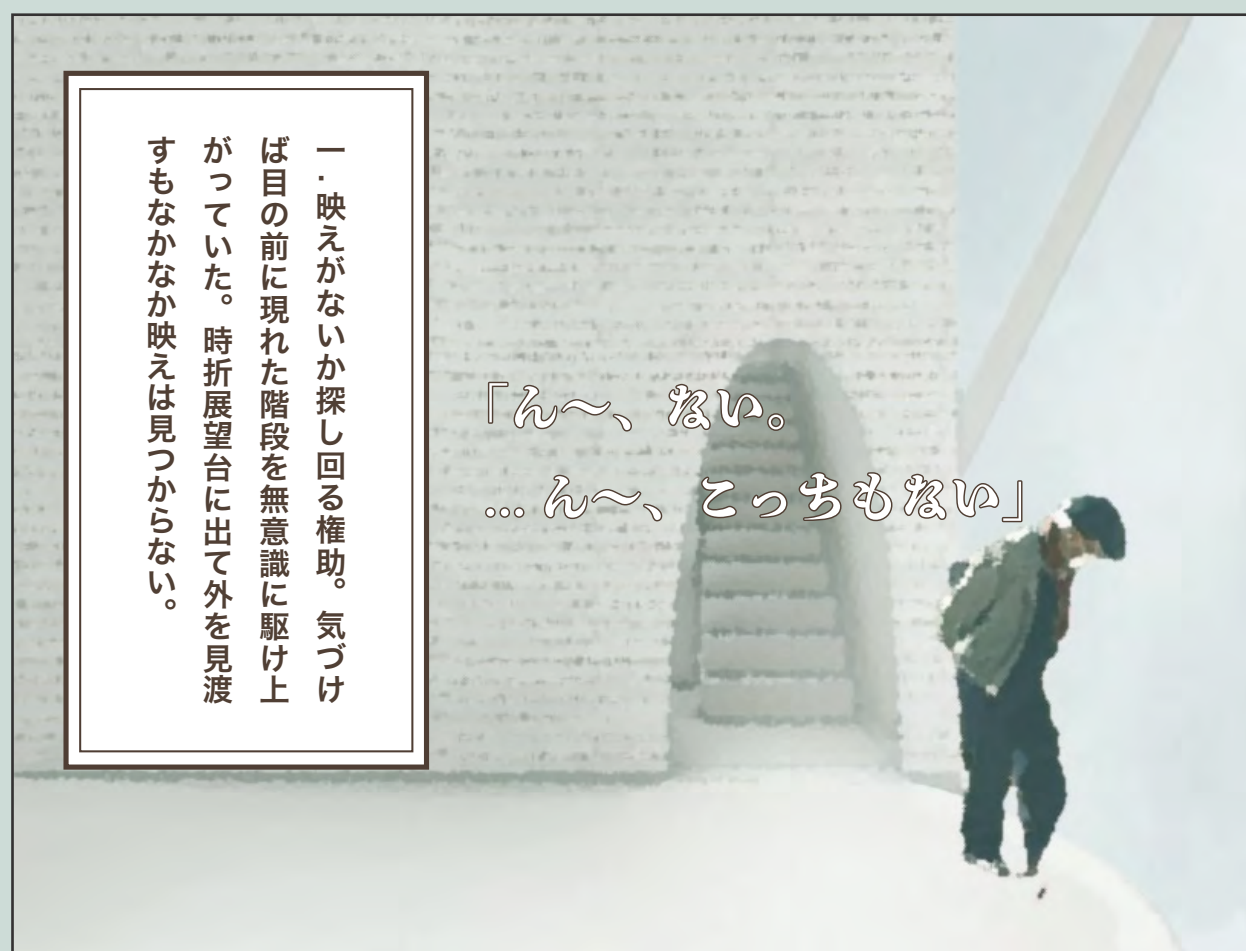
一・人間を眺めては勝手に嘸を作り上げて
しまうこの男。今日も隅田公園を眺めて
いると興味を惹かれる人間がやってきた。



「お、キタキタ。今日も
いいネタ転がってんな」

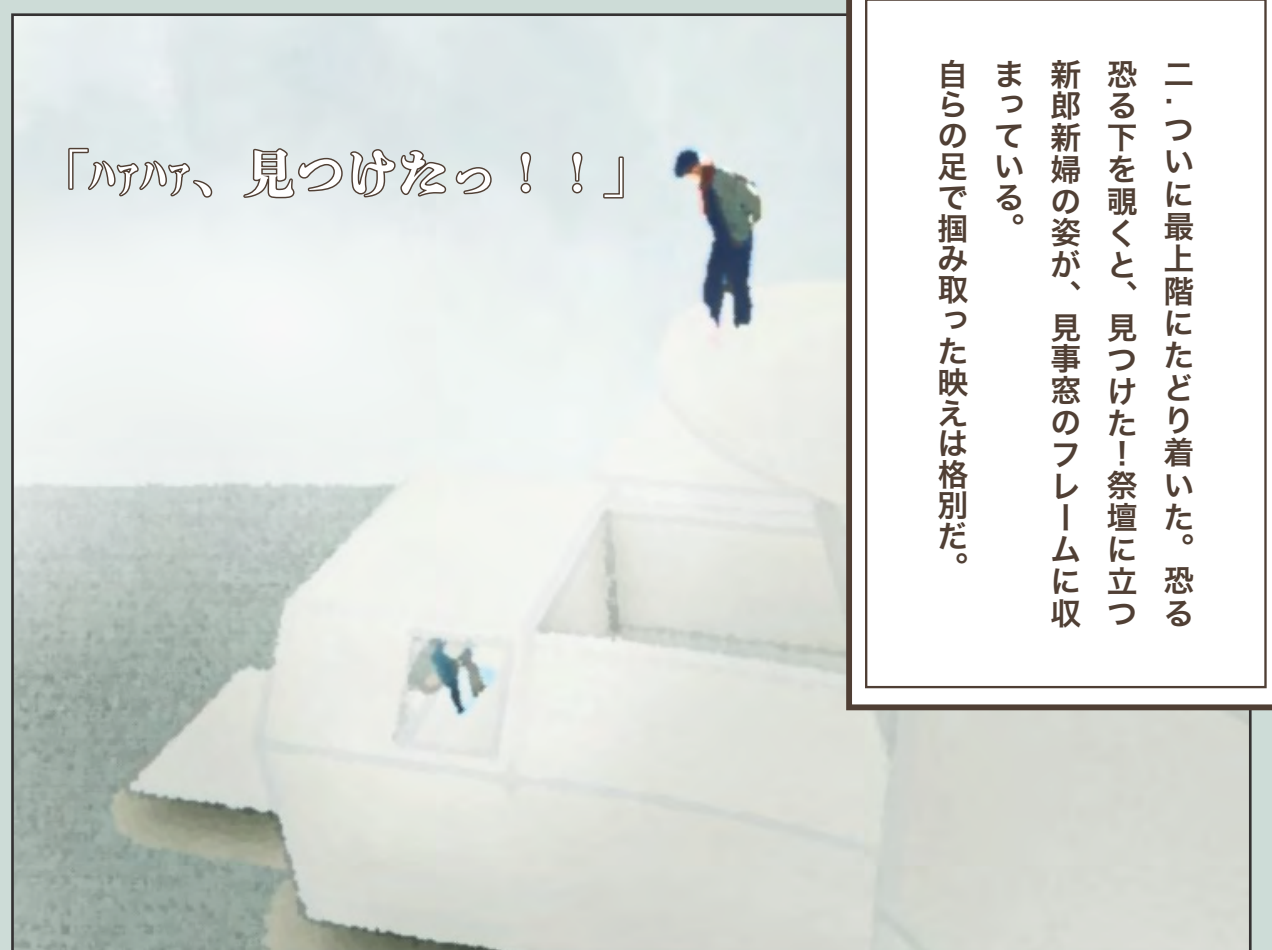
さあ、妄想を始めよう。――

映え撮りの翁



一・映えがないか探し回る権助。気づけば目の前に現れた階段を無意識に駆け上がった。時折展望台に出て外を見渡すもなかなか映えは見つからない。

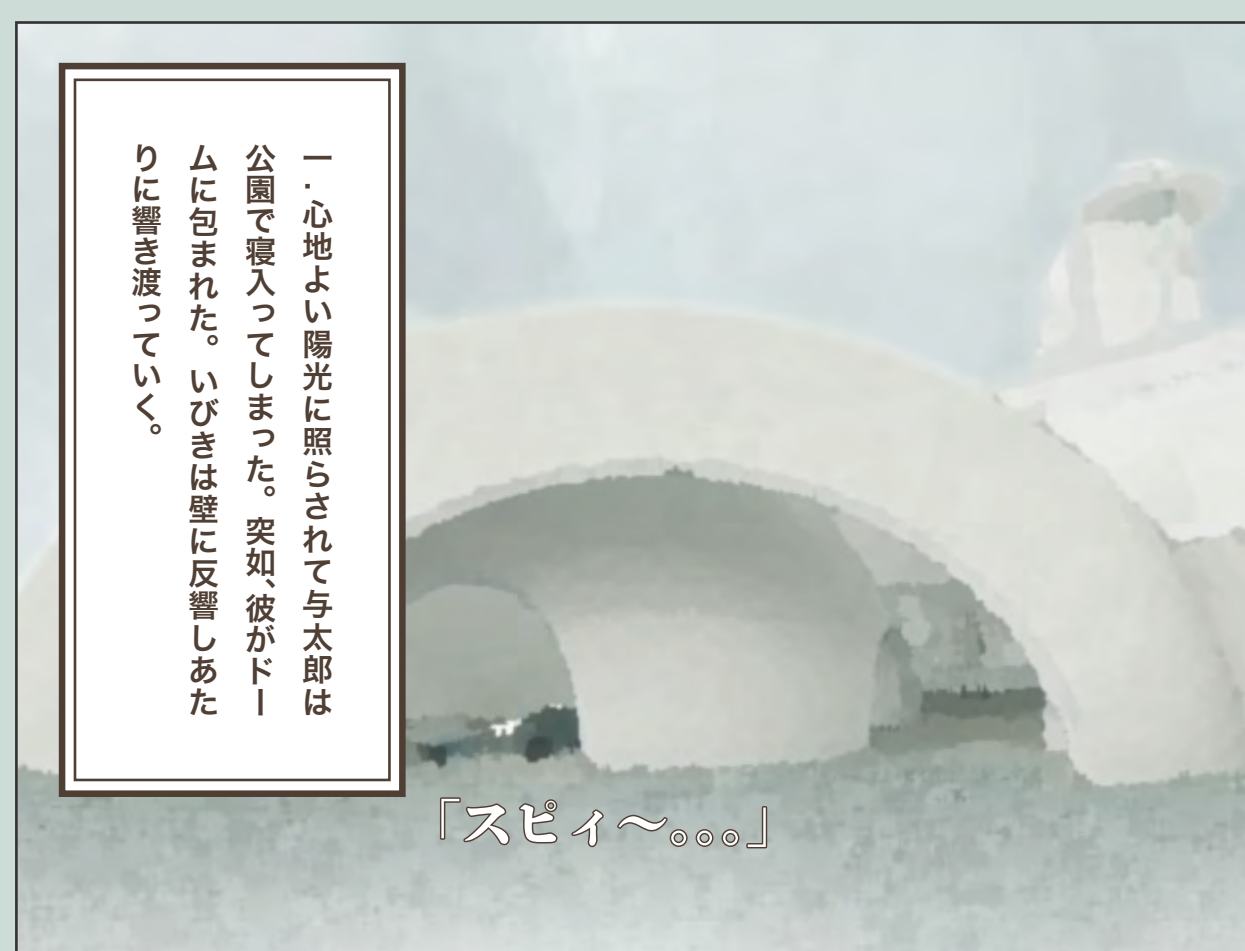
「ん〜、ない。
...ん〜、こっちもない」



「ハアア、見つけたっ！！」

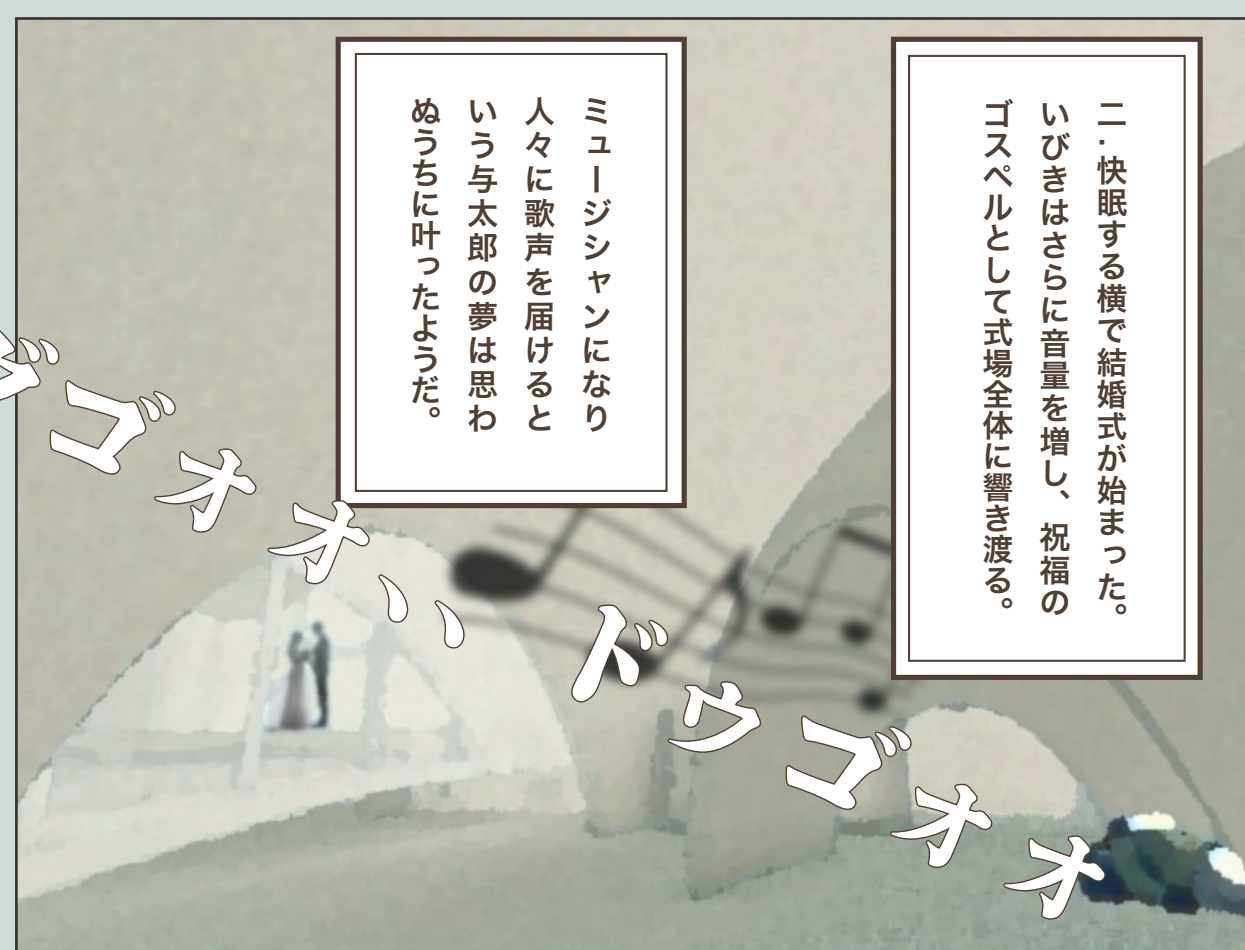
二・ついに最上階にたどり着いた。恐る恐る下を覗くと、見つけた！祭壇に立つ新郎新婦の姿が、見事窓のフレームに収まっている。
自らの足で掴み取った映えは格別だ。

いびきゴスペル



一・心地よい陽光に照らされて与太郎は公園で寝入ってしまった。突如、彼がドームに包まれた。いびきは壁に反響しあたりに響き渡っていく。

「スピー〜。。。」

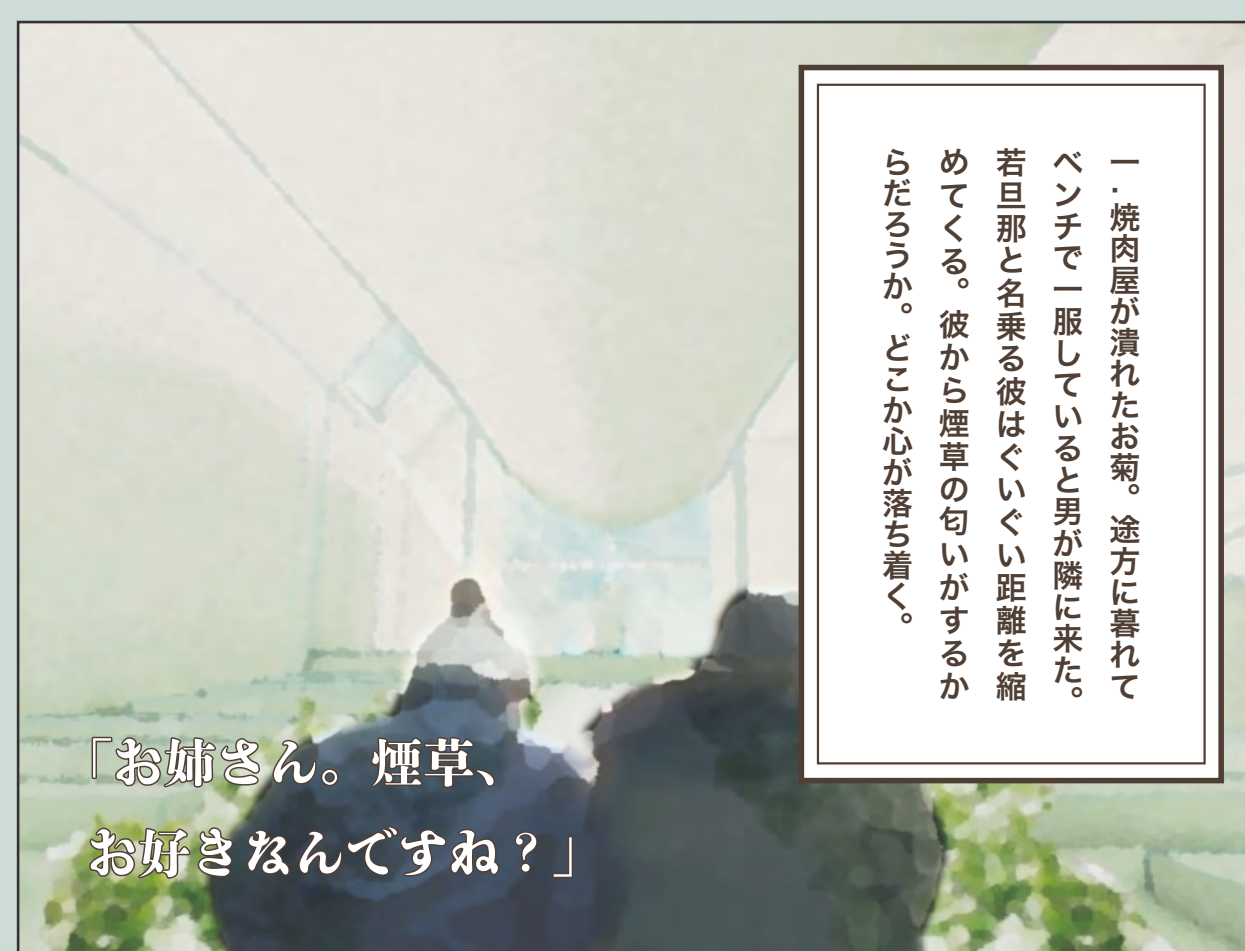


ミュージシャンになり人々に歌声を届けるといふ与太郎の夢は思わぬうちに叶ったようだ。

二・快眠する横で結婚式が始まった。いびきはさらに音量を増し、祝福のゴスペルとして式場全体に響き渡る。

「ゴゴオオオ、ゴゴオオオ」

一服の恋



一・焼肉屋が潰れたお菊。途方に暮れてベンチで一服していると男が隣に来た。若旦那と名乗る彼はぐいぐい距離を縮めてくる。彼から煙草の匂いがするからだろうか。どこか心が落ち着く。

「お姉さん。煙草、お好きなんですか？」



「汝は若旦那を愛するとを誓うか？」

二・そんなことを思っているところは結婚式場だった。どうやら私はこのまま結婚するらしい。
開式の合図なかいびきの様なゴスペルが鳴り響く。祭壇に上がると、遠く上のほうでシャッターが光った気がする。

二・一服する間もなく始まるお菊の電撃
挙式。与太郎のいびきがゴスベルを奏で
て祝福する。地上20mから新郎新婦を
捉えた権助渾身の映え写真。
——いいネタが仕上がってきた——



三・寄席はすでに観客で一杯である。
ほどなく出囃子が鳴った。
高座に上がると共に盛大な拍手。
呼吸を置いて、私は口を開く——

「妄想隅田川という一席、
今宵もお付き合います。」

▽GL+33670

▽GL+21385

▽GL+9100

▽GL+8190

▽GL±0

切妻屋根と展望台の傾斜が
共鳴し上方への意識を強める

権助の展望台

お菊と若旦那の式場

与太郎の寝室

若旦那とお菊の関係性を示すように、入
り口では二つに分かれていたボリューム
が徐々に近づき祭壇で一つの空間となる

2層構造のドームに覆われたことで極上
の睡眠を手にした与太郎のいびきは式場
に響き渡り、祝福のゴスペルと化す。

X-X' 断面図 S=1/150

0 3 6 9m

▽GL+33670

竹穴を覗き込む老人の、覆い被さるような体勢と後ろに組まれた両腕、おぼつかない足取りの下半身

▽GL+21385

権助は展望台の頂上から式場のハイサイドライトを通して唯一無二の映え写真を撮影する。

▽GL+9100

演者の背景には漸の中で舞台となる建築群が橋を介して繋がって見える。これは果たして妄想か現実か。

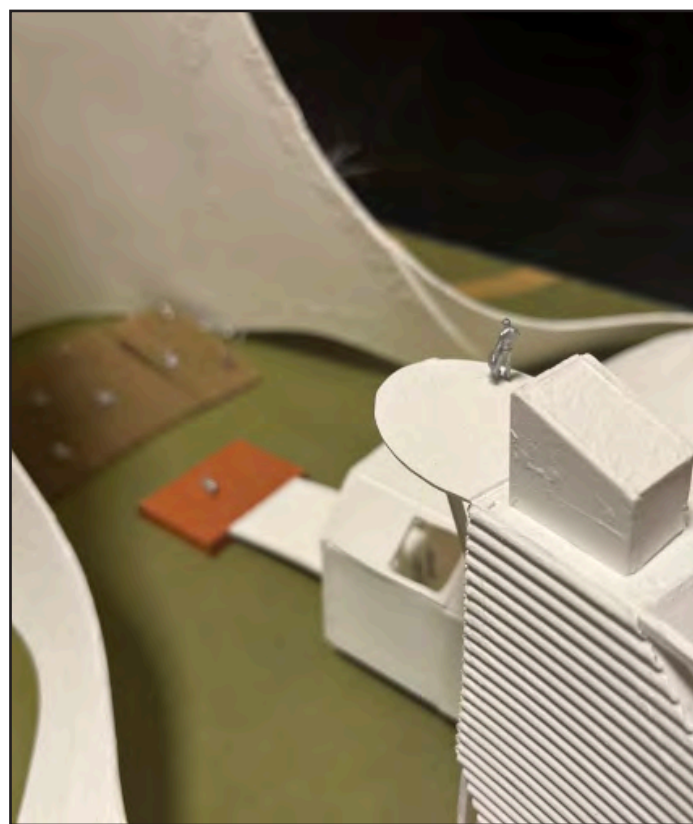
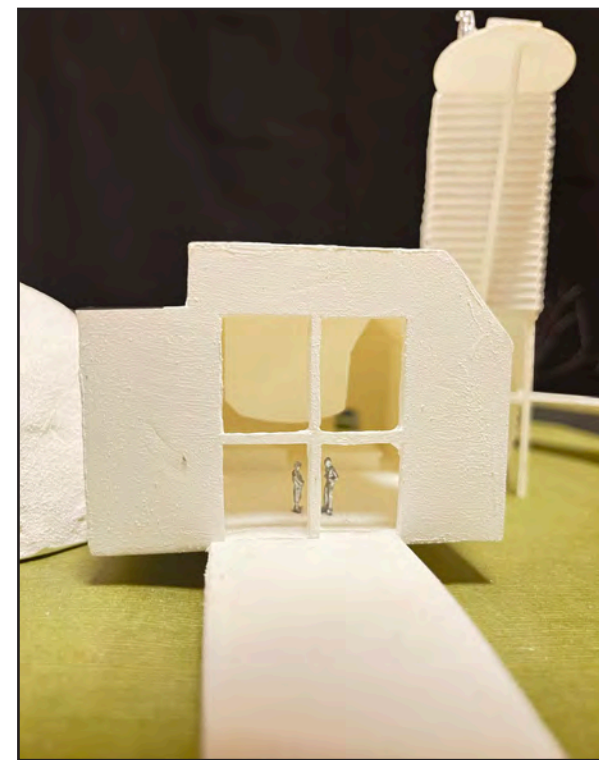
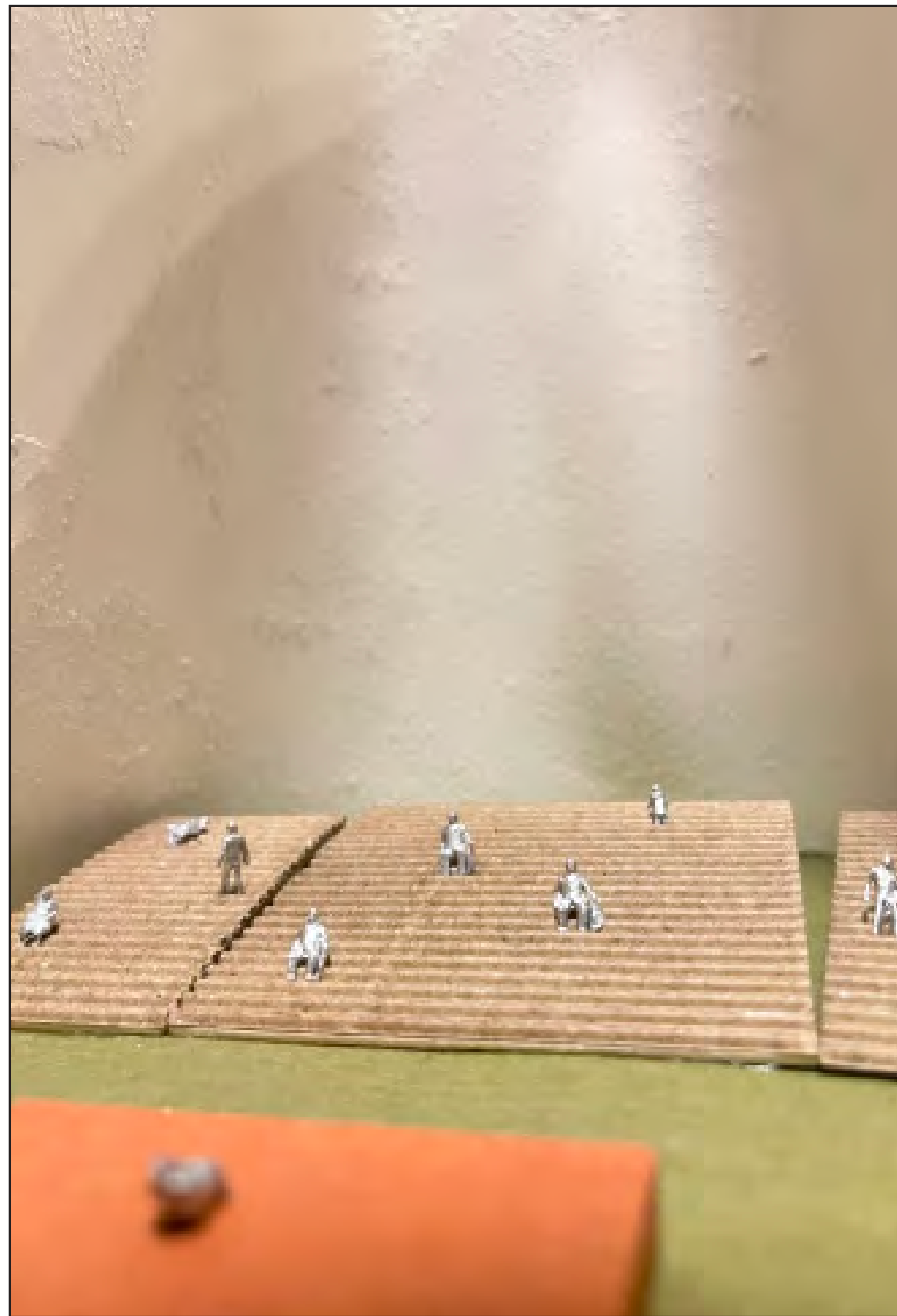
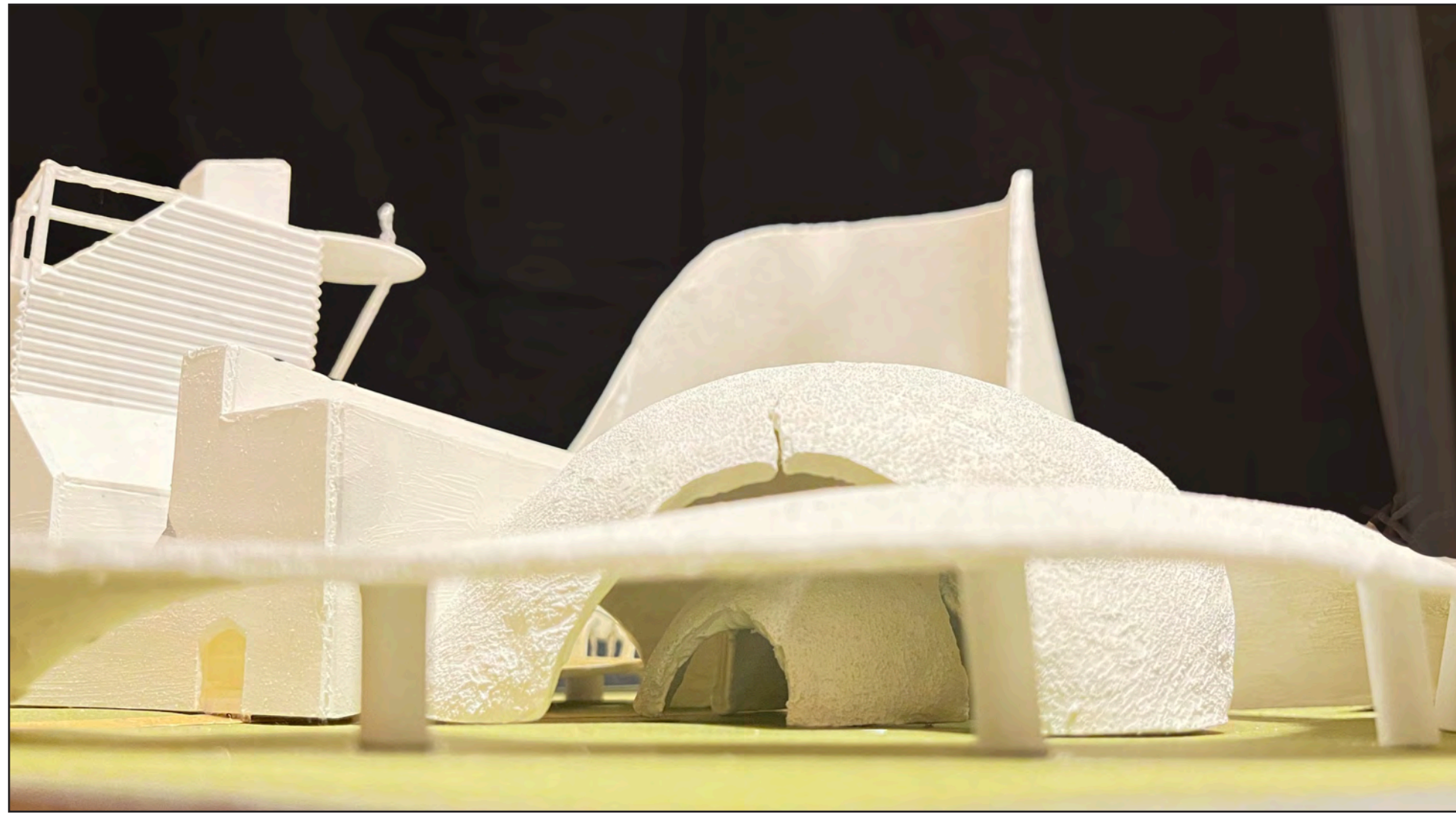
▽GL±0

ふくよかな男が体操座りする姿を元にしたずんぐりしたボリューム包み込むようなリング



Y-Y' 断面図 S=1/150

0 3 6 9m



お後がよろしいようぞ。

—